

森林土木工事に関するアンケート 集計結果

R6.3.7

項 目		内 容		
1 発注時期 ・ 工期設定	① 治山・林道工事では早期発注を実施していますが、 発注時期は適切でしたか。	適切	28 件	
		不適切	0 件	
		未回答	1 件	
	○いただいたご意見・ご要望等			
	・工事の早期発注で平準化して、とてもいい傾向だと思う。			
	② 令和5年度に発注した工事の工期について、受注者 として適切と思いますか。	適当	26 件	
		不適当	2 件	
		未回答	1 件	
	○いただいたご意見・ご要望等			
	・3月発注により5月連休明けには工事に取りかかれ、梅雨時期までには基礎部が出来上がり、降雨による被災から逃れられた。			
・工事量（主たる工種＋工事用道路）に対しての発注時期が遅いため、冬季にかかるため工程が間に合わない。				
・設計時の想定に変更が生じた場合は、工期についても見直して頂きたい。				
・林道工事において、コンサル設計測量時から年月の経過により、工事発注時には設計図書との乖離が多く（年月経過による自然状況による地山線等の変化）又、測量杭等の流出があり、工事起工測量に苦労した。その地形変化の影響で、予定構造物の形状変更も多くあった。				

	項 目	内 容	
2 入札等	① 総価契約単価合意方式（包括的単価個別合意方式）を適用した工事発注を進めていますが、他官庁発注の当該方式適用工事を受注した際のご意見等があれば、ご記入ください。		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事中の出来高管理が分かり易い。 ・ 近畿中国森林管理局でも、はるか昔には内訳書の提出、新規工種は見積もり徴収をやっていた。当然やるべきだと思う。 ・ 一式計上の箇所について、内容に不明な点があるが、全体的には問題ない。 	
	② 近畿中国森林管理局では、ホームページに積算資料等を公表していますが、ご存じですか。	知っている	28 件
	知らない	0 件	
	未回答	1 件	
	③ 入札不調に効果的な対策など、ご意見があれば、ご記入ください。		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 入札不調となる原因が様々あると思うので、それぞれに対する方策があると思う。一度でも入札不調になった案件は、再発注する前に施工箇所近隣業者の意見を確認して再発注した方が不調が減るのではないか。（不調の原因として考えられるもの：工期が短い、施工困難地域にも関わらず設計内容が想定される金額と見合っていない（特に林野の場合は多いと思う）、施工困難地域でありながら仮設や機材の搬入方法が不明瞭、等々） ・ 発注前に現地調査を行い、現場条件を踏まえ、施工可能な工法による工事発注をしていただきたい。又、受注後も工法や材料の変更協議にも柔軟に対応していただきたい。 ・ 技術者不足の場合、主任技術者又は、監理技術者の兼務できる条件を緩和する。 ・ 早期発注時での場合、1 回目が入札不調ならば指名入札を行い、工期が十分に取れるように入札を実施してもらえれば良いと考える。 ・ 施工困難な現場や積雪・豪雨の多い場所での工期の延長を考慮願いたい。 ・ 業者にとっては人材不足が大きな問題であり、若手社員の工事実績がなく森林土木の経験値がないため、参加できない場合もあると思うので、会社だけの実績を入札参加要件で公告されてはどうか。 ・ 見積徴収型案件の入札採用（場所、工法、設計金額等で、受注者が他の平地での工事より期待できる利益が得られないため参加しないと思われる） <ul style="list-style-type: none"> * 人力作業が多い（労働者の高齢による作業の鈍化） * 急峻な所での作業が多い（平地より安全確保が困難である） * 現場までの移動時間が長い等（労働者に疲労が蓄積される） ・ 国土交通省とほぼ同じ歩掛かりとなっているが林野庁の工事は山間部にあり、狭く交通も不便な場所であり、また箇所当たりの構造物の数量が少ないため無駄なことが多い。作業効率が非常に悪く20%程度の割り増しがほしい。 ・ 入札不調の要因は、工事規模・技術者不足・技術者の実績などが考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> * 40,000千万未満工事の2 工事一括発注。 * 技術者の実績・従事役職を問わない発注（工事難易度）《国土交通省は適用》 * ICT活用の実施 ・ 入札不調になった場合、近隣において過去に入札参加及び落札業者から意見聴取し、出来れば見積り提出をしてもらう。 ・ 入札時の設計における重機の選定について、現場の状況を考慮した選定をお願いしたい（BH、ダンプ等）。金額が合わない。 	

項 目		内 容	
①	ICTを活用した工事を行ったことがありますか。 (他官庁発注工事を含む。)	ある	18 件
		ない	10 件
		未回答	1 件
○「ある」と回答した方は、その内容（具体例）をご記入ください。			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三次元測量、出来形管理、土工。 ・ ICT土工、BIM/CIMモデリングによる施工ステップ作成。（法面、堀削、床堀） ・ 河川の浚渫工事において、ドローンを用いて空中写真測量による起工測量を行い、得られたデータを用いて3次元設計データを作成した。そのデータをもとにバックホウのバケットを誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて堀削・法面整形を行った。 施工完了後、ドローンによる空中レーザー測量を行い、そのデータにより行った3次元施工管理データを工事完了図書として電子納品した。 ・ 道路土工（堀削・盛土）、河川土工（堀削）、舗装工（light ICT）（表層路盤） ・ スキー場ゲレンデ造成工事 ・ 堀削 V=12,240m³ ICT建機バックホウによる堀削及びICT建機ブルドーザーによる整地。 ・ ICT土工 ①3次元起工測量 ②3次元設計データ作成 ③ICT建機による施工 ④3次元出来形管理 ⑤3次元データの納品 ・ 出来形管理 ・ R5年度 堀削土工にて施工した。 ・ 山腹工アンカー工事において、施工地が急傾斜地であった為、レーザースキャナー（点群）による3D起工測量を行い、設計図面との照査及び施工管理を行った。 ・ ①ドローンによる3次元起工測量 ②3次元設計データ作成 ③ICT建設機械による施工 ④3次元出来形管理 ⑤3次元データの納品 ・ 戸倉東山山腹工事 法面堀削 ・ ①ICT土工（堀削工880m³、盛土工1,100m³） ②ICT土工（堀削工4,430m³、路体盛土工13,200m³） ③ICT法面整形工（切土部1,850m³、盛土部2,760m³） ・ ①3次元起工測量 1. 空中写真測量（UAV） 2. 地上型レーザースキャナー測量 ②3次元設計データ作成 ③ICT建設機械による施工 ④3次元出来形管理 ・ 豪雨災害により崩壊した戸倉東山国有林内の法面に法砕工を施工するためRCM工法で切土及び法面整形をおこなう際、UAVによる三次元起工測量・出来形測量を実施した。 RCM堀削機はマシンガイダンスシステム搭載の機械を使用し約2,000m³の法面整形を施工した。 山間部での施工であるため気象状況によっては、人工衛星から位置情報を受信しにくい箇所もありインターネットの受信状況等も関係するため、山間地域（固有林）での利用にはまだまだ課題がある。 ・ 道路改良工事における、道路土工（切土工、盛土工） ・ 写真測量のみ。 			

3
施工

項 目		内 容		
4 災害発生時の緊急対応	① 災害発生時に備え緊急応急工事に応じていただける方の公募を行いました。知っていますか。	知っている	27 件	
		知らない	1 件	
		未回答	1 件	
	② 次回公募を行った場合、応募されますか。	応募する	27 件	
		応募しない	1 件	
		未回答	1 件	
○いただいたご意見・ご要望等				
・災害発生時の対応については、県や市町村内であれば応募する。				
5 意見交換会	① 次回以降の意見交換会の開催方法として、対面での開催・WEB方式での開催、どちらを希望されますか。	対面	12 件	
		WEB	14 件	
		未回答	3 件	
	○それぞれの回答に対するご意見があれば、ご記入ください。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらも一長一短があるので、今回のように併用方式が良いのではないかと思います。 ・対面・WEB どちらでも参加する。 ・対面とWEBの選択方式をお願いします。 ・貴重な時間を割いて意見交換をしていただけるので対面式がいいのではと思う。 ・対面での意見交換の方が、スムーズな意見交換が可能。 ・対面の方が意見のキャッチボールがしやすく、内容が充実しやすい。 ・直接会って意見交換が望ましい。 			

項 目	内 容
<p>6 その他</p>	<p>上記の他に、ご意見・ご要望などがありましたら、ご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事写真の提出方法にバラツキがある。情報共有システムについても担当者によってバラツキがある。 ・毎回意見交換会やブロック協議会で同様の質問・要望が出ている。これは、工事において改善が図られていないからであろうと思う。 例えば、工事現場へ入るのに現地までの道路幅員が狭隘で大型車両が進入できないにも拘らず、現場で大型重機を稼働させる設計をしている。また、県道・市道等で通行不可になるくらいまでアウトリガーを張り出さなければ作業が出来ない状況を考慮せずに、クレーン車設置での作業が設計されている。 入札前に質問をしても、設計図書と現地が著しく乖離のある場合は協議の上変更の対象とする旨の回答が返されるが、初めて着工する現場ならいざ知らず、長年にわたり施工している現場ならば、変更での対処ではなく当初から改善要望を盛り込んだ設計にしていきたい。また、公告の前ならば局審査段階で適切な改善指導を望む。 ・完成検査について 国土交通省や県発注工事の完成検査では、出来形検査の確認は一部の工種のみで寸法確認を実施している。森林管理署では段階確認などで担当職員の方が、ほぼすべての出来形寸法を確認しているのに、完成検査時においても再度測定している状況。出来形図や測定結果一覧表での管理があるので測定箇所確認が多すぎると思う。 完成書類についても、追加特記仕様書に書類限定型工事検査と明示されており、かなりの書類も減少した工事検査となっている。当然のことながら安全書類（KY関係・新規入場者教育など）の提出は一切ない。 ・最近の作業員の不足、また材料も入手不足を理由にスムーズに入っていない等で、工期がきつくなっている。工期の延長等を柔軟に対応してほしい。 ・見積変更（随意契約）は、変更に伴う合計額ではなく増減額でお願いしたい。 現在、紙での変更見積を電子での実施をお願いしたい。 ・働き方改革について、施工現場においては週休2日が浸透しているが、監督員及び技術者の書類作成時間の更なる低減が必要と思う。 書類簡素化の見える化（何が簡素化しているのか）などを行い、少しずつでも簡素化の実感が出るようにしていきたい。 ・令和5年度用郷山森林作業道新設工事における土量の考え方について 切土量の90%を残土として処理する設計となっているが、実際は切土量の120%（ほぐした土量）を運搬することになる。ご検討頂きたい。